国語(現代文・古文)　同志社大学　全学部日程[文系]（２／５実施）　１／３

＜総括＞

出題数	現代文　１題･古文　　１題	試験時間	75 分

民俗学がもつユニークさを、その研究対象および方法から説明している文章。柳田国男の主張を引き合いに出しつつ、文字資料では注目されてこなかった「普通の人々」の暮らしを、「民俗資料」として研究する学問であることが説明されている。

前年度と同じく追加文章のある設問が設定されていた。追加文章の出典は本文と同じだが、設問としては、共通テストのように複数の文章の関連性を問うものにはなっていない。前年度と比べて追加文章の分量が増加しているが、全体の設問数は一つ減少した。（一）の選択肢は受験生にとってあまり馴染みのないものが含まれていたので、判断に迷ったかもしれない。

＜本文分析＞

大問番号	一
出　　典 （作者）	『民俗学入門』 菊池暁
分　　量 前年比較	分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加） ※本文は 4500 字程度。（三）の追加文章は 1000 字程度。
難　　易 前年比較	難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

＜大問分析＞

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
一	評論	（一）	客観式	標準	接続語の空欄補充問題（「なんとなれば」・「とはいえ」）。空欄の直前直後を踏まえて考える。
		（二）	客観式	標準	傍線部についての内容説明問題。「民俗学の目的」の特徴を捉える。
		（三）	客観式	標準	傍線部に関連する内容を述べた追加文章を読み、筆者の主張を説明する問題。
		（四）	客観式	標準	傍線部についての内容説明問題。柳田国男の主張を捉える。
		（五）	客観式	標準	本文全体に関する内容合致問題（３つ選ぶ）。
		（六）	記述式	標準	筆者の主張を記述する問題（40 字以内）。「民俗資料」についての筆者の主張をまとめる。

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

・分量の多い文章を論理の展開にしたがって読み進め、意味段落ごとの内容を把握しながら全体の論旨をつかむ力を身につけるべく、日ごろから訓練をしておこう。
・論述型の問題の対策としては、複雑な内容をできるだけ簡潔に表現できるよう、繰り返し練習すること。

© 河合塾　2023 年

国語(現代文・古文) 同志社大学　全学部日程［文系］（２／５実施）　２／３

＜総括＞

出題数	現代文　１題　・　古文　１題	試験時間　75　分

・出題形式は従来通りで、本文と設問の難度も昨年とさほど変わっていない。
・本文分量は昨年度よりやや減少しているが、例年通りの長さである。
・この日程は説話からの出題が多いが、本年度は 2021 年度『桐の葉』、2017 年度『月のゆくへ』や、2016 年度『住吉物語』などと同じく物語からの出題である。
・問題文は読みやすいものではあるが、設問を解くためには傍線部だけでなく、本文全体を見渡して解く必要がある。

＜本文分析＞

大問番号	二
出　典 （作者）	うつほ物語　俊蔭
頻出度合 ・的中等	頻出（ただし、この話柄は稀）
分　量 前年比較	分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）約 1100 字（前年 1280 約字）
難　易 前年比較	難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

＜大問分析＞

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
二	作り物語	(一)	客観式	標準	語句の意味。a「うつくしげなる」b「目もあやなる」の意味を選ぶ。
		(二)	客観式	標準	解釈。「ものの次々は劣りこそすれ、この族は伝はるごとにまさること限りなし」の解釈を選ぶ。「こそ＋已然形、～」の訳出と、「この族」に「伝はる」のが〈琴〉を弾く技術であることを念頭において解釈するのがポイント。
		(三)	客観式	標準	説明。「こよなくたよりを得たる心地するもあはれなり」の説明を選ぶ。「たよりを得たる」人物と「あはれなり」と述べる人物を明確にする。
		(四)	客観式	標準	説明。「東国より都にかたきある人、報いせむと思ひて、四、五百人の兵にて、人離れたるところを求むるに、この山を見占めて、おそろしげにいかき者ども、一山に満ちて」の説明を選ぶ。「人離れたるところ」として母子の住む山を「見占め」たという経緯と、兵士たちが「一山に満ち」ている状態を明確にする。
		(五)	客観式	標準	文法。傍線部の５か所の助詞「に」の中から、文法的意味・用法の異なるものを選ぶ。
		(六)	客観式	標準	内容合致。６つの選択肢から２つを選ぶ。例年通り選択肢はどれも短い。
		(七)	記述式	標準	説明（句読点とも 30 字以内で）。「このなん風の琴を取り出でて、一声弾き鳴らすに」の動作主体と動機を説明する。

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

© 河合塾　2023 年

＜学習対策＞

・例年、語句の意味や傍線部の解釈問題、文法問題が出題される。識別を中心に付属語の意味を整理し、重要古語を中心に語彙力をつけておく。
・説話からの出題が多いが、物語から出題されることもある。普段からさまざまなジャンルの古文に慣れておきたい。
・和歌が含まれる出典や問題も散見するので、普段から和歌の学習をおろそかにしないこと。
・客観式の問題の難易度が標準的なので、最終設問の記述問題（30 字以内）が合否の分かれ目になると思われる。設問条件をよく理解して、手際よくまとめられるように練習を積んでおくこと。「記述説明問題」といっても、国公立二次型とはやや異なり、30 字という少ない字数でまとめる点は同志社に特徴的なものなので、過去問題で練習を積んでおきたい。
・常に正確な人物把握を心がけ、文脈全体の流れのなかで各設問を考えることが肝要である。

© 河合塾　2023 年